

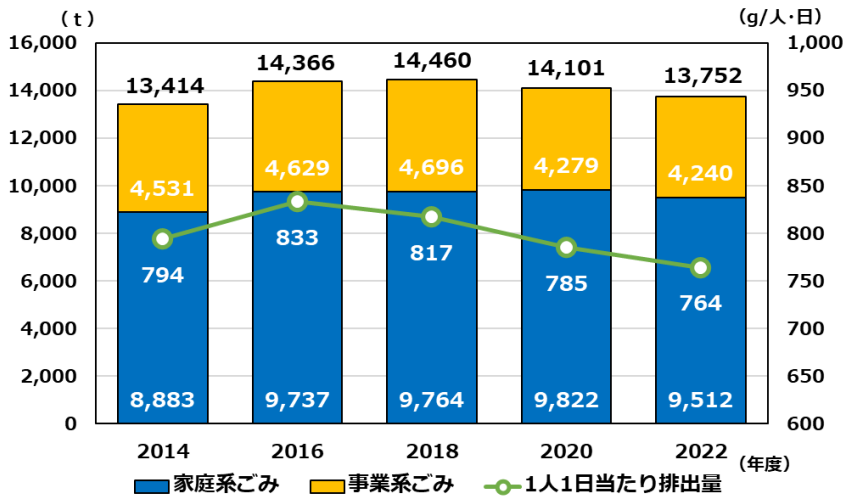
高浜市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画【概要版】



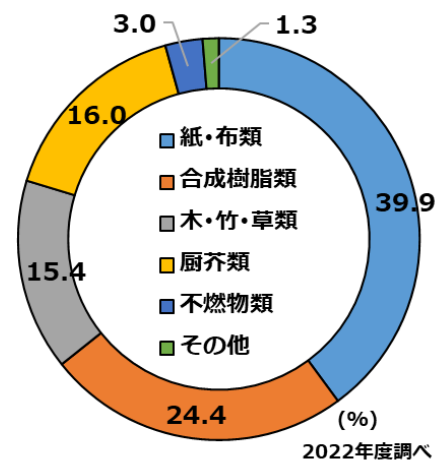
高浜市のごみの現状を見てみよう！

2022(令和4)年度における高浜市のごみ総排出量は約13,700トン、1人1日当たりの排出量は約764gでした。家庭系ごみは、コロナ禍などの影響もあり、ネットショップの利用などにより一時増加しましたが、近年は減少傾向となっています。事業系ごみは、今後は増加傾向になる可能性があります。

■ごみの排出量



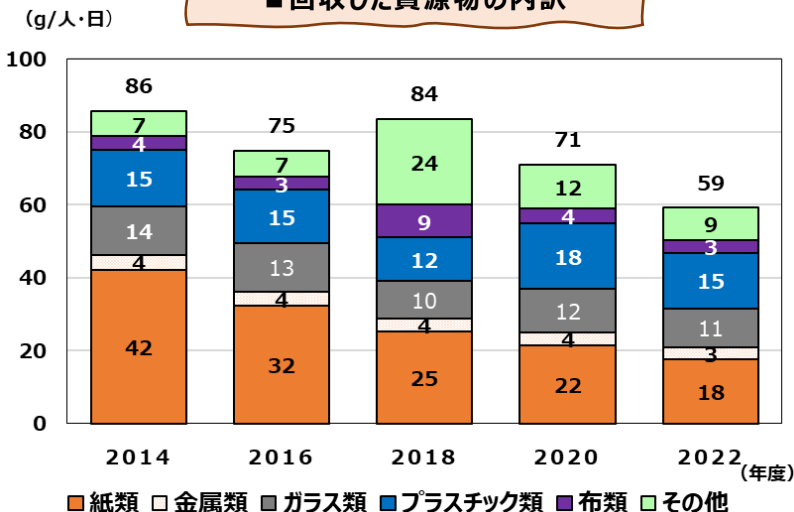
■可燃ごみの組成



資源物回収量は、特に紙類が大きく減少しています。これは民間事業者による古紙回収の増加や新聞購読率の低下などにより、本市が回収する量が減っていると考えられます。また、紙類以外の資源物については、ほぼ横ばいとなっています。

※資源物回収量は、市が関与する回収量のみで、民間事業者による回収量は含まれていません。

■回収した資源物の内訳



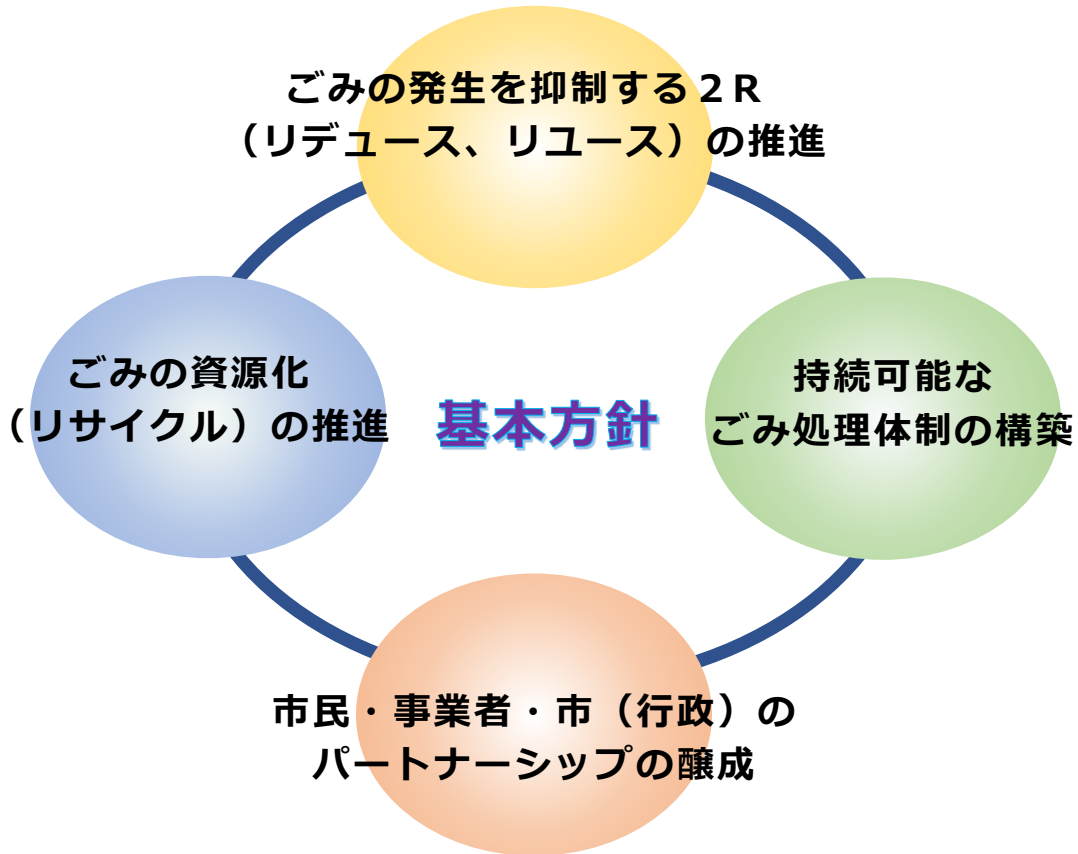
ごみを減らすことも大事だけど、他にも何かできることはあるの？

ごみを出す前に正しく分別することがとても大切です。
自分のまわりにある物が使えなくなったら、資源物としてどう分別できるか考えてみましょう。



この計画は、なにを目指すの？

ごみの減量と資源を分別し再利用することで循環させる「持続可能な循環型社会」、二酸化炭素の排出量を実質ゼロにする「脱炭素社会」などの実現を目指すため、本計画では4つの基本方針を定めます。



- ・資源を大切に使うための以下の3つの行動の頭文字をとって「3R」といいます。
- ・身近なところから積極的にチャレンジしてみましょう。

R educe
リデュース
(発生抑制)
ごみにしない

R euse
リユース
(再使用)
繰り返し使う

R ecycle
リサイクル
(再生利用)
資源として活用



まだ食べられるはずの食べ物がごみになる
“食品ロス”を減らすことなども大事だね！



次の施策で
『循環型社会』
の実現を目指
していくよ

基本方針 1 ごみの発生を抑制する 2R の推進

(1) 発生抑制（リデュース）の推進

- ・ 3きり(使いきり・食べきり・水きり)運動の推進
- ・ 3010(さんまるいちまる)運動の推進
- ・ マイ〇〇持参運動の推進(マイバッグ、マイボトル、マイ箸等)
- ・ 事業系ごみ適正排出啓発チラシの作成
- ・ ごみの減量に向けた取組を実施する事業者への支援検討

(2) 再使用（リユース）の推進

- ・ 市のHPや掲示板等を活用したリユースマッチング事業の検討
- ・ フリマアプリ、リユース業者等との連携
- ・ フリーマーケットやリサイクルショップ等の情報提供

基本方針 2 ごみの資源化の推進

(1) 拠点回収・集団回収の促進

- ・ 雑紙分別事典の提供
- ・ 資源回収品目の拡大検討
- ・ 家庭系ごみ組成調査の実施

(2) 事業所における資源化の推進

- ・ 事業所への訪問指導
- ・ 事業系紙ごみの資源化に係る啓発
- ・ 資源化業者とのマッチングの推進

(3) 地域・民間資源回収の活用

- ・ 実施拠点拡大に向けた呼びかけ、支援
- ・ 回収量の把握

(4) 新たな資源回収品目の検討

- ・ 製品プラスチックの回収・リサイクルの検討
- ・ 排出状況の調査
- ・ 先進事例の調査とリサイクルに係る検討
- ・ 単一金属、廃食用油等のリサイクル検討

みんなですつと
住み続けられる
まちにしよう!!

基本方針 3 持続可能なごみ処理体制の構築

(1) 安心できるごみ処理施設の整備

- ・ 先進事例の調査研究
- ・ 食品廃棄物や剪定枝等のバイオマスの有効活用の検討

(2) 新たな資源化品目にも対応する 収集運搬体制の整備

- ・ 設備更新等に向けた検討
- ・ デジタル技術の活用等の検討

基本方針 4

市民・事業者・市（行政）のパートナーシップの醸成

(1) 地域とのコミュニケーションの活性化による取組の推進

- ・ 市民とともにごみの減量のあり方を検討
- ・ 情報、意見交換会の開催
- ・ 市内一斉ごみ拾いイベント「クリーン大作戦」の実施検討
- ・ 海洋プラスチックごみ対策の重要性周知

(2) 多様な手法による啓発の実施

- ・ ポスターの募集・掲示・表彰
- ・ 事業者への表彰検討

各主体がそれぞれの
立場に応じた役割を
分担し、協働・共創
して取組みましょう



この計画に目標値はあるの？

10年後の目標値

ごみ総排出量は、**660g/人・日以下**を目指します。

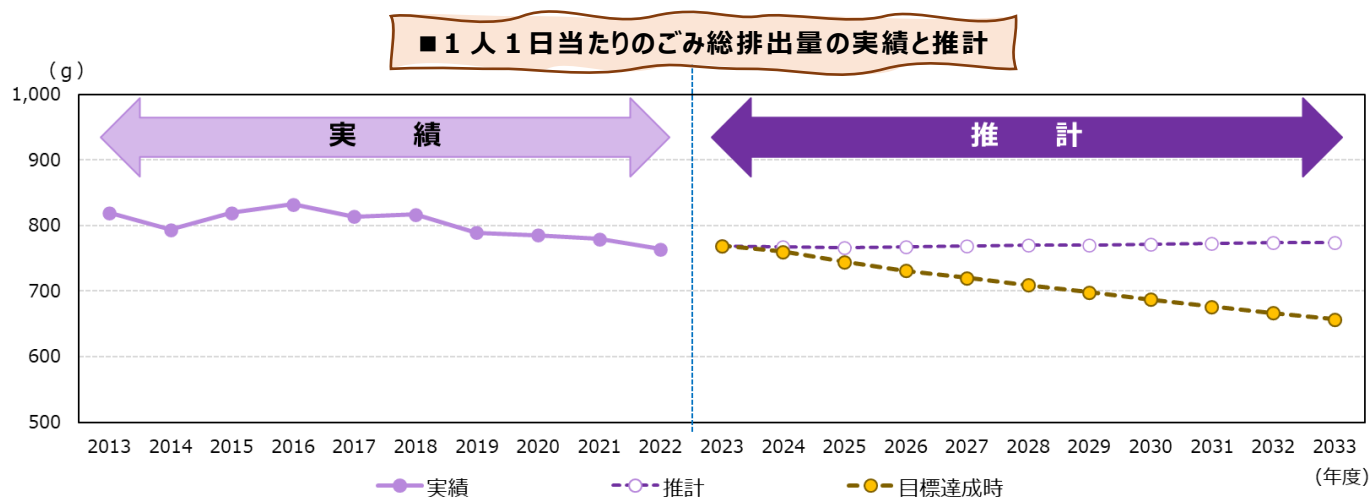
うち、家庭系ごみ排出量は、**450g/人・日**

うち、事業系ごみ排出量は、**210g/人・日 (10.9t/日)**

資源物回収量は、**110g/人・日以上**を目指します。

●ごみ総排出量の将来推計

ごみ総排出量はそのまま推移した場合、2033（令和15）年度には1人1日当たり774gと、2022（令和4）年度に比べて約1.3%増加すると想定しています。そのため、今後、市民・事業者の皆様と協働で、ごみの減量・資源化に取組み、1人1日当たり660g以下の削減を目指します。



■家庭系ごみ(資源物以外)の削減目標

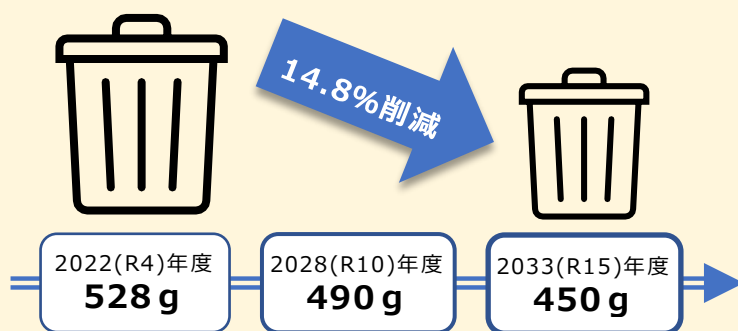
【1人1日当たり、家庭系ごみ排出量】

- ▶ 生ごみ・食品ロスの削減
- ▶ 新たな分別品目や分別の徹底などの取組で、2033（R15）年度に、

1人1日当たり450g以下を目指します。

※分別の徹底によって資源物回収量は

1人1日当たり110g以上を目指します。

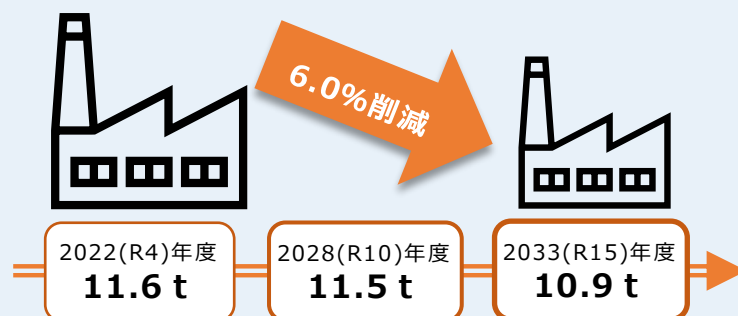


■事業系ごみの削減目標

【1日当たり、事業系ごみ排出量】

- ▶ 食品廃棄物等の削減
- ▶ ペーパーレス化や紙類の分別などの取組で、2033（R15）年度に、

1日当たり10.9t以下を目指します。





ごみを減らす取組を着実にすすめるよ！

本計画では4つの基本方針を軸に施策を推進し、ごみを減らす取組をすすめます。

基本方針1 ごみの発生を抑制する2R（リデュース、リユース）の推進

(1) 発生抑制（リデュース）の推進

- ア. 生ごみ・食品ロスの削減
- イ. プラスチックの削減
- ウ. 紙類、その他の削減
- エ. 事業所における発生抑制の推進

(2) 再使用（リユース）の推進

基本方針2 ごみの資源化（リサイクル）の推進

(1) 拠点回収・集団回収の促進

- ア. 分別の徹底
- イ. 集団回収活動の活性化

(2) 事業所における資源化の推進

- ア. 事業者独自の資源化の促進
- イ. 資源化に向けた情報の提供

(3) 地域・民間資源回収の活用

- ア. 市民による店頭回収等の利用促進
- イ. 事業者による実施拠点の拡大

(4) 新たな資源回収品目の検討

- ア. プラスチック資源のリサイクルに向けた検討
- イ. 刈草・剪定枝のリサイクルに向けた検討
- ウ. その他資源化に向けた分別区分の導入検討

基本方針3 持続可能なごみ処理体制の構築

(1) 安心できるごみ処理施設の整備

- ア. クリーンセンター衣浦の安定した運転・延命化対応
- イ. 脱炭素社会に向けた次期ごみ処理施設の検討

(2) 新たな資源化品目にも対応する収集運搬体制の整備

- ア. 収集運搬業者との連携強化
- イ. 収集運搬体制の効率化検討

(3) 多様化するごみ処理に係る適切な費用負担

- ア. 指定ごみ袋制度のあり方検討
- イ. ごみ処理手数料制度のあり方検討

(4) 多発・激甚化する災害への対応

基本方針4 市民・事業者・市（行政）のパートナーシップの醸成

(1) 地域とのコミュニケーションの活性化による取組の推進

- ア. 市民と環境を考える会の創設
- イ. ごみ分別コンシェルジュの活動の推進
- ウ. きれいで住みやすいまちづくりの推進

(2) 多様な手法による啓発の実施

- ア. 市民が分かりやすく受け取りやすい情報発信
- イ. 環境学習の機会の拡大
- ウ. 環境意識向上を目指したイベント等の開催



こんなことをやってみよう！！

「マイ○○○」を持参しよう！

マイバッグ、マイボトル、マイ箸^{はし}などの
使い捨てるであろう『もの』を使わず、
くり返し利用できるものに
切り替えましょう。

残さず食べよう！3010運動

宴会開始時の乾杯後30分と
最後の10分を、席を離れずに
食事を楽しんで食べきりましょう。

燃えるごみの中には
「生ごみ」、「紙類」、
「プラスチック類」が
いっぱい入っているよ！

「3きり」を実践しよう！

食材の「使いきり」、
食品の「食べきり」で
食品ロスを削減しましょう。
生ごみの「水きり」も心掛けましょう。

ごみの「分別」を徹底しよう！

ごみを出す前に、
「食品トレイ」「牛乳パック」、
または「新聞・雑誌」だけでなく
「雑紙」など、しっかり分けましょう。



生活排水処理計画ではこんな取組をすすめていくよ

川や湖の汚れの原因の多くは生活排水の流入と言われており、豊かな水環境を守るためには生活排水を適切に処理することが重要です。

公共下水道への接続^{じょうかそつ}や浄化槽^{そくしん}の設置の促進、家庭でできる発生源対策などについて啓発・広報活動^{けいはつ}を行っていきます。

公共下水道供用開始区域の
早期接続の推進

水環境保全のための
啓発・広報の推進

合併処理浄化槽の
普及促進

効率的かつ持続的な
収集処理体制の整備

環境負荷の少ない
快適な水環境の
推進と保全